

赤磐市公立保育園再編検討報告書



平成24年3月

赤磐市公立保育園再編検討委員会

目 次

はじめに	1
第1章 再編計画（案）の基本的な考え	3
1 保育園の現状	3
（1）公立保育園の果たす役割	3
（2）保育園の在園者数	3
（3）入所児童数と今後の見込み	3
（4）施設の状況	4
2 基本的な考え	5
第2章 アンケート調査の実施結果	6
1 アンケート調査概要	6
（1）調査の目的	6
（2）アンケート調査の対象	6
（3）調査期間	6
（4）回収状況	7
2 分析による主な内容	7
（1）在園児、未就学児保護者共通事項	7
（2）在園児保護者の統合になった場合の問題点・不安	7
（3）未就学児保護者の統合に関しての要望	8
第3章 意見交換会での要望等について	8
1 意見交換会の概要	8
2 保護者意見交換会での意見・要望	9
3 地域意見交換会での意見・要望	10
4 地域からの意見を受けて	12
第4章 実施の具体計画	13
1 施設の再編	13
（1）赤坂地域の再編	13
（2）吉井地域の再編	13
2 充実したサービスの提供	13
（1）保育サービスの質の向上	13
（2）延長保育	14
（3）一時預かり	14
（4）乳児保育	14
（5）病児保育	14
第5章 今後の再編に向けて	15
1 再編の実施期間	15
2 説明会の開催	15
3 再編の最終決定	15
4 跡地利用について	15
おわりに	16

はじめに

赤磐市合併後の幼児教育の方向性については、平成19年9月に報告された赤磐市幼児教育検討委員会による「赤磐市における今後の幼児教育のあり方について」の中で、幼児教育充実のための方向性が示されたところであり、

- (1) 保育園・幼稚園の連携について
- (2) 幼児教育における集団を構成する適正な人数について
- (3) 3歳児教育について
- (4) 幼児教育全般について
- (5) その他子育て支援のあり方等について

の各項目について慎重なる検討・審議が行われました。報告書で示された内容の特に注目すべき点は、その方向性において、保育園と幼稚園の教職員の人事交流や合同研修の実施と幼児教育における集団を構成する適正な人数について、園全体で最低20人は必要とするところにあります。

現在、山陽・熊山地域では保育園と幼稚園で、赤坂・吉井地域では保育園において幼児教育や就学前保育を行っています。合併前から今日に至る過程や経緯は各地域でそれぞれ異なっているものの、保育園では保育所保育指針、幼稚園では幼稚園教育要領に基づいた子どもの心身の健やかな成長と人格形成を図る営みが行われています。

赤磐市の公立保育園の施設整備を含めた再編やサービスのあり方については、保育園のみによる就学前の保育運営を行っている赤坂・吉井地域において協議の必要性が語られてきたところです。近年加速する少子高齢化、過疎化に伴う入所園児の減少と運営施設の老朽化によって、地域においてその早急な対応が求められています。

こうした地域の実態は勿論、国の動向や社会の現状を踏まえながら、このたび『赤磐市公立保育園再編検討委員会』を設置して、就学前の子どもたちを取り巻く保育環境の整備や今後のサービスのあり方等について幅広い検討を行った結果について、ここに報告書として取りまとめ市長に提出するものです。

平成24年3月29日

赤磐市公立保育園再編検討委員会

委員長 環太平洋大学教授 勝田麻津子

赤磐市内の保育園位置図



第1章 再編計画の基本的な考え

1 公立保育園の現状

(1) 公立保育園の果たす役割

赤磐市の公立保育園運営については、市の中部に位置する赤坂地域に石相保育園、軽部保育園、笹岡保育園の3園、北部の吉井地域に周匝保育園、黒本保育園、佐伯北保育園、仁美保育園の4園を開設しており、それぞれの保育園が旧町の時代からの変遷をたどりながら、地域の子どもたちの養育を担い地域の絆を深める交流の場としての役割を果たしてきました。

(2) 保育園の在園者数

平成23年4月1日現在の公立保育園における在園児数は、表-1に示すとおりであり、途中入園の児童を見込んで毎年定員割れとなっています。

合併当時252人であった在園児は、平成23年度現在180人であり、当時の7割と大幅に減少しています。

表-1 公立保育園年度別児童数（各年度4月1日現在）

単位：人

園名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
石相保育園	59	57	59	61	48	46	45
軽部保育園	34	27	25	24	23	18	20
笹岡保育園	21	20	25	23	26	25	18
周匝保育園	46	35	41	37	41	40	36
黒本保育園	37	41	42	35	28	21	21
佐伯北保育園	34	34	34	33	26	26	25
仁美保育園	21	23	16	17	16	16	15
全体	252	237	242	230	208	192	180

(3) 入所児童数と今後の見込み

過去5年間の各園入所児童数の実績から増減率を算出したところ、すべての園において減少傾向にあることが分かります。

また、同様に過去5年間の各小学校区に住所を有する0～5歳児の児童数の実績から増減率を算出したところ、すべての小学校区において児童数が減少傾向にあることが分かりました。これは、赤坂・吉井地域で少子化が進行していることを示しており、今後も児童数は減少していくことが予測されます。

実績から算出された増減率に基づき、平成28年度までの児童数の予測を行ったところ、表-2のような結果となりました。

表-2 保育園別予測児童数（各年度4月1日現在）

単位：人

	入所児童数（実績）					4年間の 平均増減率	今後の入所児童数（予測）				
	H19	H20	H21	H22	H23		H24	H25	H26	H27	H28
石相	59	61	48	46	45	93.9%	42	40	37	35	33
軽部	25	24	23	18	20	95.3%	19	18	17	16	16
笹岡	25	23	26	25	18	93.3%	17	16	15	14	13
周匝	41	37	41	40	36	97.2%	35	34	33	32	31
黒本	42	35	28	21	21	84.6%	18	15	13	11	9
佐伯北	34	33	26	26	25	93.0%	23	22	20	19	17
仁美	16	17	16	16	15	98.5%	15	15	14	14	14
	242	230	208	192	180		169	160	149	141	133

（4）施設の状況

赤坂地域の3園と吉井地域の4園それぞれの施設の概要は表-3のとおりです。

赤坂地域の3園は、いずれも耐震基準改正前の建築であり、吉井地域の仁美保育園も昭和56年以前の建築となっています。石相保育園については、平成12年に乳児保育室の増築を行いました。園舎は昭和34年に建築したものであり、同じく軽部保育園についても昭和35年建築の施設となっています。こうしたことから園児の安全性や快適な保育環境の確保という視点から早急な対応が望まれます。

表 - 3 公立保育園施設状況

保育園名 (所在地)	建築年	木造・非木造	建物延面積	入所定員	入所児童数 (平成23年 4月1日現在)	入所率
石相保育園 (町苧田 27)	S34.2 H12.1	木造・平屋建 鉄骨・平屋建	488.1 m ² 66.24 m ²	70 人	45 人	64.3%
軽部保育園 (今井 117)	S35.2	木造・平屋建	374.0 m ²	40 人	20 人	50.0%
笹岡保育園 (坂辺 99)	S55.2	鉄筋コンクリート・ 平屋建	303.4 m ²	40 人	18 人	45.0%
周匝保育園 (周匝 1549)	S58.2	鉄筋コンクリート・ 平屋建	468 m ²	40 人	36 人	90.0%
黒本保育園 (黒本 2179-1)	S60.1	鉄筋コンクリート・ 平屋建	457 m ²	40 人	21 人	52.5%
佐伯北保育園 (塩木 6-1)	H5.1	鉄骨造・平屋建	362.8 m ²	40 人	25 人	62.5%
仁美保育園 (仁堀中 855)	S51.4	鉄骨造・平屋建	442 m ²	30 人	15 人	50.0%

2 基本的な考え

第1項で述べた保育園の現状から赤磐市における今後の公立保育園の再編について、計画的に施設整備やサービスの向上を行う必要性があることを再認識しました。再編検討委員会では次の6項目を基本方針として検討を行いました。

- (1) 子育てサービス等により影響を受けるのは子ども自身であること、次代の赤磐市を創造するのは子どもたちであるとの視点に立って、豊かな人間性を身につけ、自立した大人となるための養育とサービスの向上を目指す。
- (2) 赤坂地域では、各施設ともに建築年度が古く、耐震化を考慮するとともに建替えの方向で検討する。

- (3) 吉井地域については、地域が広いことも配慮し、人数減少園から段階的に再編統合するものとする。
- (4) 将来的な財政状況を踏まえ、耐震基準に配慮しながら、可能な限り現在の施設を活用して再編を進める。
- (5) 保護者の保育に対する考えやサービスに対する要望を把握するため、就学前の保護者も含めて、意見を聴取し、再編の方向性を探る。
- (6) 計画的に意見交換会や説明会を開催し、保護者や地域の皆さんの意見や要望の把握に努めるとともに、広報やホームページで情報を知らせる。

第 2 章 アンケート調査の実施結果

1 アンケートの調査概要

(1) 調査の目的

赤坂・吉井地域の公立保育園の再編実施にあたり、通園保護者のニーズ把握、課題分析を行い、今後の赤磐市公立保育園のあり方について統廃合も含めた検討を行う参考とするために実施する。

(2) アンケート調査の対象

- ・市内公立保育園に在園する全園児の保護者
- ・赤坂、吉井地域における未就学児の保護者

(3) 調査期間

平成 2 3 年 1 0 月 2 2 日から 1 0 月 3 1 日まで

(4) 回収状況

在園児保護者用アンケート

単位：人

	石相	軽部	笹岡	周匝	黒本	佐伯北	仁美	合計
配布数	39	17	16	32	16	25	13	158
回収数	38	17	16	30	16	23	13	153
回収率	97.4%	100.0%	100.0%	93.8%	100.0%	92.0%	100.0%	96.8%

未就学児保護者

単位：人

	赤坂	吉井	合計
配布数	31	35	66
回収数	23	23	46
回収率	74.2%	65.7%	69.7%

2 分析による主な内容

(1) 在園児、未就学児保護者共通事項

- 選定理由 「保育園が自宅（祖父母宅）に近い」が8割以上を占めている。
- 通園手段 約9割が自家用車を利用している。
- 通園時間 85%が「15分以内」を希望している。
- 児童数 適正な人員として「1園20～30人」を半数以上が支持する。
- 統合により期待する保育サービス
 - 病児・病後児保育
 - 休日保育
 - 延長保育

(2) 在園児保護者の統合になった場合の問題点・不安

- 通園時間が今より長くなる。（保育園の立地場所、利便性）
- 児童一人ひとりに目が行き届かなくなる。
- 環境の変化により児童の不安が増す。
- サービスの低下（保育士の人員等）を招く。
- 保護者同士の人間関係に不安を感じる。
- 過疎化の進行が加速する。

(3) 未就学児保護者の統合に関する要望

- 一時保育などサービスを充実してほしい。
- 統合により新しい施設にしてほしい。
- 幼稚園の開設を希望する。(経済的負担が大きいため)

第3章 意見交換会での要望等について

1 意見交換会の概要

アンケート調査の結果や第3回の再編検討委員会における『もっと地域や保護者の意見を聞き計画に反映させるべき』との意見を受けて、下記の日程により各保育園及び地域において意見交換会を開催しました。

【保護者意見交換会】

日 程	時 間	場 所	参加人数
平成 24 年 1 月 23 日	13:00 ~	笹岡保育園	6 名
	15:00 ~	軽部保育園	6 名
平成 24 年 1 月 24 日	13:00 ~	周匝保育園	9 名
	16:00 ~	佐伯北保育園	4 名
平成 24 年 1 月 25 日	13:00 ~	仁美保育園	7 名
	16:00 ~	黒本保育園	9 名
平成 24 年 1 月 27 日	16:00 ~	石相保育園	7 名

【地域意見交換会】

日 程	時 間	場 所	参加人数
平成 24 年 2 月 20 日	19:00 ~	赤坂健康管理センター	11 名
平成 24 年 2 月 21 日	19:00 ~	吉井会館	12 名

【注】保護者、地域意見交換会とも参加人数は事務局職員を除いたものです。

【説明内容】

再編の検討状況

保育園の現状

アンケート調査の結果報告

質疑応答

2 保護者意見交換会での意見・要望

(1) 石相保育園

- ・ 仮園舎を造って、ここに建ててほしい。
- ・ 赤坂地域で1園となった場合、旧赤坂町の位置的な中心は軽部だが、人数規模の中心は石相になる。
- ・ 石相の保護者に、統合した保育園の場所が軽部でもいいのか聞いてみたい。軽部になった場合は山陽の保育園・幼稚園を選ぶ人もいるかもしれない。
- ・ 赤坂ストア前の入り口が狭い。

(2) 軽部保育園

- ・ 小学校の統廃合と別問題ではない。所管が違うのはわかるが、保護者としては同じ問題。切り離して考えないでほしい。保育園が1園ならば小学校も1校にした方が納得できる。
- ・ 15分以内の場所に新設するとなると場所はどのあたりになるのか。石相の近くなら桜が丘や山陽の幼稚園や保育園に行かせてもよい。
- ・ 民営化の可能性はあるのか。

(3) 笹岡保育園

- ・ 保育園の先生は統合についてどう思っているのか。アンケートをとる予定はないのか。
- ・ 統合ありきの話になっている。小さい施設でもやりがいがあったり、一人ひとりをじっくり見れるなど利点がある。人数が少ないから統合、というのが本当にいいことなのか考えてほしい。
- ・ 統合を納得できない人が多い。親はきめ細かいサービスを望むので、人数が少ないのが悪いとは思わない。

(4) 周匝保育園

- ・ 通園時間は15分以内を希望、とアンケートのまとめにあったが、あくまで「可能

な範囲」であって、近いに越したことはない。

- ・周匝保育園を増改築したら園庭が狭くなるのでは。建て替えてほしい。
- ・駐車場の場所が悪いので整備してもらいたい。

(5) 黒本保育園

- ・家庭的な雰囲気があり、地域との交流もさかんなので園を残してもらいたい。保育園が遠いと園の催しや交流行事に高齢者が行けなくなる。
- ・少人数の保育の方がいいと思う。
- ・子どものためには集団生活できる人数で社会性を養わせたいとも思うし、少人数できめ細かい保育をしてほしいとも思う。複雑な気持ちが正直なところ。

(6) 佐伯北保育園

- ・佐伯北保育園は園児数が多いので廃園になることはないと思っている。
- ・園児数が増えると教室が足りないのでは。
- ・ホールがとても狭いので広げてもらいたい。
- ・病児保育には別途保育料がかかるのか。

(7) 仁美保育園

- ・吉井地域で2園となると小学校と同じく周匝で1園、仁美で1園が妥当だと思う。仁美保育園がなくなると、すべて北へもっていかれてしまう。小学校がなくなるならなおさら保育園は必要である。
- ・存続する園を決める時に園児数だけで判断しないでほしい。地域的なことを考えてほしい。
- ・「吉井」「赤坂」という決め方ではなく、全体的にみて決めてほしい。仁美地域からいえば、笹岡か仁美のどちらかは残してほしい。笹岡、仁美の2園ともなくなると近隣保育園がすべてなくなってしまう。
- ・自転車や徒歩で通園している人はどうすればいいのか。小学校も保育園も徒歩圏内で行けなくなると困る。

3 地域意見交換会での意見・要望

【赤坂地域】

1. 小学校の統廃合も検討されているが、総合的に考えてほしい。
2. 新築の施設について、建設場所はどこになるのか。
3. きめ細かいサービスの面からいえば、人数が少ないのが悪いとはいえない。

4．自家用車で通園していない交通弱者に対する対応は考えているのか。

【吉井地域】

- 1．多人数、少人数それぞれに利点がある。
- 2．地域との交流が盛んな園なので、地域の高齢者の楽しみがなくなる。
高齢者は保育園が遠くなると、行けなくなってしまう。
- 3．小学校が無くなるのであれば、保育園は残してほしい。地域に何も無くなってしまう。
- 4．赤坂・吉井という決め方ではなく、全体として見て決めてほしい。地域の生活圏も考慮して、仁美と笹岡のどちらか残せないか。

【質疑応答（共通事項）】

Q：市として保育園再編の計画案はあるのか

A：赤坂地域は1園、吉井地域は2園の運営にしたいと思っている。どの園が廃園になるかは決まっていない。意見交換会で保護者や地域の意見を聴取し、委員会での検討材料としたい。

赤坂地域は施設が老朽化しているので施設を新設したい。吉井地域は人数規模的には1園でも対応できるが地域的なことを考えると2園による運営が望ましいと考えている。既存施設を利用し、増改築で対応したい。

Q：保育園の統合によって得られるメリットはあるのか。

A：保育サービスの向上と、子どもの社会性の向上、集団活動の幅が広がるなどが考えられる。統合を検討するためのひとつの目安として1園20名以下という基準を設けた。

Q：何年後をめどにしているのか。すぐに実施されるのか。

A：すぐさま実施はしない。平成26年を目指している。計画から施設整備までとなると2～3年は必要だと思われる。

Q：1園の児童数が増えると保育士の目が行き届かなくなるのでは。

A：保育士は保育基準に従って配置する。現状よりは、保育士の把握園児数は多くなると思うが、施設の整備等によって、園児の安全面に配慮する。また、保育サービスの向上にも努めていきたい。

Q：幼稚園と保育園の違いはなにか。幼稚園は必要なのか。

A：幼稚園は文部科学省所管で幼児教育を目的とした施設。短時間の預かりで利用料も安い。保育園は厚生労働省所管で、「保育に欠ける子ども」を預かる施設。長時間（11時間）開設されており、保育料は所得に応じて決定される。そのため、一部の低所得世帯を除き、保育料は幼稚園の費用（利用料）に比べて高い。また、保育園が利用できる保護者は保育に欠ける家庭であることが要件となるため、幼稚園のように全ての対象児童が利用できるものではない。吉井地域では、合併前に幼稚園を保育園に変更している。

一般的に幼稚園の方が経済的負担が軽いため、アンケートでは保育園に入所していない保護者からの要望が多かった。

4 地域からの意見を受けて

赤磐市公立保育園再編検討に関するアンケート調査と地域意見交換会を実施し、赤坂地域・吉井地域の方の意見を集約分析した結果、それぞれの課題と地域特性があり、公立保育園の地域で果たす役割も大変重要であることが認識できました。

しかしながら、過疎地域の少子化は急速に進行しており、園児数が少ない保育園では、子どもたちの感性や理性理念が少単位（家庭の領域）を超えられない状況に陥っています。

また、保育園が担うべき役割の一つである幼児期の健全育成の面からも、多くの友達との交流により育つ社会性の向上や、集団活動の幅を広げて色々な経験を積んでいくことで大きく成長していくことが望まれ、次のように委員会で検討を行いました。

- (1) 赤坂地域の新築保育園については、規模や建設場所について慎重に対応すべきである。
- (2) 通園の問題（交通弱者）については、保護者の責任であることの見解は変わらないため、保育園ごとに個々に状況把握をするなど、家庭状況も踏まえたうえでの検討が必要である。
- (3) 保育サービスの向上に対応するための人材の確保、職員体制、施設整備など十分な準備が必要なサービスもあるので、計画的に検討していく必要がある。
- (4) 幼稚園の利用希望については、利用量等を把握したうえで、市としての対応が必要である。

第4章 実施の具体計画

第3章までの調査・検討をもって、再編検討委員会は今後の赤磐市公立保育園の再編計画に関して以下のとおり提言します。

1 施設の再編

(1) 赤坂地域の再編

赤坂地域の児童数から保育園1園での運営が望ましい。公立保育園1園を新設する。

現在の保育園児（平成24年2月1日現在）については、石相保育園55人、軽部保育園20人、笹岡保育園21人であり、今後5年間で約20人前後の減少が見込まれること、また石相保育園、軽部保育園の施設の老朽化への対応も急務であることから、適正規模の保育園を建設し、1園での運営が望ましい。

(2) 吉井地域の再編

吉井地域の児童数から保育園1園での運営が可能と思われるが、地理的要因及び保護者の要望を考慮すると2園での運営が望ましい。黒本保育園、仁美保育園を休園とし、周匝保育園、佐伯北保育園の2園での運営とする。

現在の保育園児（平成24年2月1日現在）については、周匝保育園42人、黒本保育園22人、佐伯北33人、仁美保育園18人である。吉井地域についても今後5年間で25人前後の減少が見込まれること、仁美保育園については園舎が昭和51年の建築であり、耐震にも問題があることから、人口規模の面から周匝保育園、施設面から佐伯北保育園の2園を利用するの保育園運営が望ましい。

2 充実したサービスの提供

再編後の保育園運営にあたり、保護者や地域の方の要望を踏まえ、保育サービスの充実を図る。

(1) 保育サービスの質の向上

職員の資質向上のための研修等を実施し、専門職としての自覚と責任を持たせるとともに、確信をもって子どもの指導にあたることのできる保育士等の育成に努めるこ

とを望みます。

(2) 延長保育

保護者の就労形態の多様化、長時間の通勤等に伴う保育時間の延長に対応するため実施するもので、現在石相保育園のみで午後 7 時まで行っていますが、再編後は全ての保育園での実施を望みます。

(3) 一時預かり

就労形態の多様化に対応する一時的な保育や専業主婦家庭等の育児疲れの解消、緊急時の保育等に対応するために実施するもので、石相保育園、周匝保育園で現在行っていますが、再編後は全ての保育園での実施を望みます。

(4) 乳児保育

保育に欠ける乳児に対して実施する保育であり、石相保育園、黒本保育園で現在行っていますが、再編後は全ての保育園での実施を望みます。

(5) 病児保育

児童が保育中に微熱をだすなど体調不良となったものの、保護者が勤務等の都合で迎えに来られない場合看護師等により対応するサービスで、現在公立保育園では行っておりませんが、再編後は実施を望みます。

第5章 今後の再編に向けて

1 再編の実施期間

平成24年度の早期に具体的な事業計画を策定し、平成25年度末までに事業を完了することを目標とされたい。

2 説明会の開催

各園保護者や地域の方々に対する事業計画の説明を計画的に実施し、理解と協力を求めなければならない。

3 園再編の最終決定

再編計画について保護者や地域の方々に説明し、地域の十分な理解を得たうえで、最終決定の判断を行うこと。

4 跡地利用について

廃園となる園の跡地利用については、施設の状況や地域の方々の意見を十分に考慮し、今後の地域づくりの拠点としての利用を目指すこと。

おわりに

本報告書は、次代を担う子どもたちの健やかな成長と、安心して子どもを産み育てることのできる地域の実現を目指して作成したものです。

現在、赤磐市は過疎化・少子化に加え、保育施設の老朽化という問題に直面しており、市内公立保育園の再編が急務であるとされています。そのような中で、赤坂・吉井地域における公立保育園にとって本当に必要な再編の姿とは何かを検討するため、平成23年7月に赤磐市公立保育園再編検討委員会が設置されました。

委員会では、子どもの育ちにとってよりよい環境とは何かを念頭に置き、地域の方々に支えていただきながら子どもたちの成長を見守ることのできる保育園を目指して協議を重ねてきました。報告にあたっては、施設の整備にとどまらず、今後必要となる保育サービスについてもアンケート調査や意見交換会で得られた意見を基にまとめました。

最後に、アンケート調査にご協力いただきました保護者の皆さまに、深く感謝申し上げますとともに、関係各位のご理解とご協力のもと、再編の早期実現に向けて、努力されることを望みます。

資料 報告書作成の経緯

日時・場所	協議内容
<p>日時 平成 23 年 7 月 12 日（火） 14 時～ 場所 赤磐市立中央図書館 多目的ホール</p>	<p>第 1 回赤磐市公立保育園再編検討委員会 （ 1 ） 委員会設置要綱について （ 2 ） 委嘱状交付 （ 3 ） 正副委員長選出 （ 4 ） 公立保育園の現状について （ 5 ） 保育園入所児童と児童人口の推移について （ 6 ） 現地視察（公立保育園 7 園）</p>
<p>日時 平成 23 年 9 月 29 日（木） 14 時～ 場所 赤磐市役所 中会議室</p>	<p>第 2 回赤磐市公立保育園再編検討委員会 （ 1 ） 赤磐市の保育サービスの実状について （ 2 ） 保護者アンケート（案）について （ 3 ） 保護者意見交換会の開催について</p>
<p>日時 平成 23 年 12 月 21 日（水） 14 時～ 場所 赤磐市立中央図書館 多目的ホール</p>	<p>第 3 回赤磐市公立保育園再編検討委員会 （ 1 ） 保護者アンケート調査結果の分析と問題点 （ 2 ） 検討すべき保育サービスについて （ 3 ） 公立保育園再編報告（素案）について （ 4 ） 地域意見交換会の開催について</p>
<p>日時 平成 24 年 3 月 14 日（水） 14 時～ 場所 赤磐市立中央図書館 多目的ホール</p>	<p>第 4 回赤磐市公立保育園再編検討委員会 （ 1 ） 保護者及び地域意見交換会での協議内容について （ 2 ） 再編報告書（案）の内容について</p>